

「郷土を愛し、未来を創る人づくり」のための  
自己点検・評価報告書

令和5年3月

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会

#### 〈参考〉地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

**第二十六条** 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

**第二十七条** 地方公共団体の長は、当該地方公共団体が設置する幼保連携型認定こども園に関する事務のうち、幼保連携型認定こども園における教育課程に関する基本的事項の策定その他の当該地方公共団体の教育委員会の権限に属する事務と密接な関連を有するものとして当該地方公共団体の規則で定めるものの実施に当たっては、当該教育委員会の意見を聴かななければならない。

**第二十九条** 地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかななければならない。

## 目 次

I はじめに	1
II 点検・評価について	2
III 重点取組	3
IV 御前崎市教育委員会自己点検及び評価	8
・ 5-1-1 スクラムによる市全体の教育力の向上	8
・ 5-1-2 人としての根を養うための、 市の特色を生かした教育の推進	10
・ 5-2-1 生きていく力の基礎の育成	11
・ 5-2-2 変化の激しい今後の社会を生き抜くための 資質・能力の育成	18
・ 5-2-3 子どもたちが可能性に挑戦できる教育環境の整備	25
V 令和4年度教育委員会の活動	27
VI 総合評価	29

## I はじめに

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会では、第2次御前崎市総合計画の教育文化分野の基本目標「郷土を愛し 未来を創る 人づくり」に基づくとともに、御前崎市教育大綱及び御前崎市教育振興基本計画の基本方針である、「園・学校、家庭、地域、産業界、各団体、行政等がスクラムを組み、協働することによって、1 思いやりがあって互いを認め合うことができ、たくましくしなやかな子どもが育つ 2 生涯にわたってともに学び続け、互いに高め合う市民が育つ」ために、教育行政を展開しています。そして、その年度の主要施策及び取組について、当市の教育を説明する『スクラム御前崎』の中で示しています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。）第26条では、教育行政の効果的推進及び市民への説明責任を果たすために、「教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行う」ことを義務付けています。

このことを受けて、教育委員会では令和4年度『スクラム御前崎』で示した主要施策及び取組の自己点検及び評価を行い、その客観性を確保するため、市内の学識経験者4名から所見をいただくとともに、第三者的立場から常葉大学教育学部 堀井啓幸教授に外部評価をお願いし、ここに報告書として取りまとめました。

今回の点検及び評価を令和5年度の施策に活かし、基本目標の達成のためにそれぞれの取組を推進してまいります。

令和5年3月

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会  
教育長職務代理者 増田克之

## Ⅱ 点検・評価について

### 1. 趣 旨

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会は、地方教育行政法第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、市議会に提出するとともに一般に公表することにより、市民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

※本自己点検・評価報告書は、御前崎市の自己点検・評価報告書から御前崎市牧之原市学校組合に係る箇所を抜粋して作成しています。

### 2. 点検・評価の対象

点検及び評価は、令和3年度「スクラム御前崎」に沿って、今年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施いたしました。このため、スクラム御前崎P.1の「重点取組」として掲げた17の施策とそれに伴う事業について評価を行っています。

### 3. 点検・評価の方法

点検及び評価の実施にあたっては、令和3年度の事業について、その進捗状況を総括するとともに、内部評価を行うことにより課題や今後の取組みの方向性を明らかにし、その結果を外部評価として、元中学校長 杉浦 尚志 氏、元教育委員 増田 美恵子 氏、元園長 渡辺 和子 氏、民間企業代表 植田 浩行 氏の御意見や、常葉大学教育学部教授 堀井 啓幸 氏に総合評価を頂くことにより、教育に関する学識経験者の知見活用に努めました。

### 4. 点検・評価の表し方

点検及び評価については、今年度執行予定の事業を、今年度3月末までにどれだけ実行できたかを「執行度」として0～100%で表しました。また、その事業自体の「妥当性」「効果性」「効率性」をそれぞれ、1「非常に低い」、2「低い」、3「どちらともいえない」、4「高い」、5「非常に高い」の5段階で表しました。「妥当性」とは、「第2次御前崎市総合計画 2016～2025」に掲げた目標達成のために、その事業自体がどれほど妥当かを評価しています。「効果性」とは、実際に事業を進めた結果、得た効果について評価しています。「効率性」とは、コスト面・人員面において費用対効果がどれほどかを評価しています。

新型コロナウイルス感染症により実施できなかった事業については、「－」で表しています。

### Ⅲ 重点取組

今回教育委員会の自己点検・評価についての報告書をまとめるにあたり、令和4年度重点取組として掲げた目標に対する評価をまとめました。今年度執行予定の事業を、今年度3月末までにどれだけ遂行できたかを「執行度」として0～100%で表しています。

◎点検・評価について ○妥当性 5・・・非常に高い "    4・・・高い "    3・・・どちらともいえない "    2・・・低い "    1・・・非常に低い ○効果性・効率性も上記に準じて評価しています。	◎今後の方向について ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤転換 ⑥中止
---	--

#### 1. 生活習慣(学習習慣)の定着

市スクラム・スクール運営協議会や学校スクラム・スクール運営協議会にて「ゲーム障害・ネット依存」の問題や各校の現状と課題について協議した。その協議を踏まえ、学校教育課と社会教育課とで連携し、地域、家庭への意識啓発ができた。

来年度以降も学校教育課と社会教育課とで連携し、子どもを取り巻く環境と生活習慣の課題を認識しスクラム・スクール運営協議会等を継続していく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
スクラム・スクール運営協議会	100	5	4	5	5	継続
家庭教育支援の推進	90	5	5	4	5	継続
「スクラム御前崎の集い」の開催	90	5	4	4	4	継続
市青少年健全育成会議・地区推進委員会の開催	70	4	5	4	4	継続
平均	87.5	4.8	4.5	4.3	4.5	

#### 2. 市の特色を生かした教育や体験による愛郷心の育成

市内小学校児童が、浜岡原子力発電所を見学したり、発電の仕組みを中電職員をゲストティーチャーとして迎え各小中学校の理科の授業で学習したりした。御前崎クエストでは、地域資源を活かした体験学習を実施し、体験学習を通じ身近にある魅力に気づくことで地域に興味を持ち、好きになる活動ができた。

来年度以降も、市の特色を活かした独自のカリキュラムによる、電源立地市の市民としてエネルギーについて自ら考え判断する力を養うための取組を継続し、郷土を愛する人材を育成をしていく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
市内各小学校における海洋スポーツ体験活動	100	5	5	3	4	継続
学習指導要領に沿った地域教材の改訂及びデータ化	100	5	5	4	5	完了
青少年リーダー育成事業「御前崎クエスト」の実施	100	5	5	5	5	拡大
エネルギー教育の推進	100	5	5	5	5	継続
マリンスポーツフェスタの開催	100	5	4	3	4	継続
平均	100.0	5.0	4.8	4.0	4.6	

### 3. 読書・読み聞かせの推進

市立図書館では「第2次御前崎市子ども読書活動推進計画」に基づき、読み聞かせや巡回貸出など子どもの成長に沿った取組を行い、読書活動を支援することができた。各小中学校では、4人の司書が図書担当職員と協力して読書活動の推進を行い、一人当たりの貸出冊数も増加している。来年度以降も引き続き、園・学校・地域・市立図書館の相互連携により、読書環境の充実を図っていく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
園の読書環境の整備	100	5	5	5	5	継続
学校における読書活動の推進	100	5	5	5	5	継続
市立図書館と学校図書館との連携	100	5	5	5	5	継続
読み聞かせなどのボランティアとの協働	100	5	4	5	5	継続
子どものための読書環境の整備	100	5	5	4	4	継続
市立図書館の充実した資料収集	100	5	4	3	3	継続
平均	100.0	5.0	4.7	4.5	4.5	

### 4. 乳幼児の保育・教育の充実と円滑な園小接続

アプローチ・スタートアップブックを作成し、各小学校の入学説明会で説明しながら配布をした。園から就学に向けての支援を丁寧に行い、子どもや保護者の安心につながる働きかけを充実させた。また、保育の質の向上に向けた研修では、特に乳児研、実技研は即保育実践につながり効果的であった。

また、3年ぶりに上智大学の奈須教授を招聘してのスクラム研究会は、小中学校の先生も参加し幼小の接続も含めた研修となった。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
アプローチ・スタートアップブックの活用	100	5	5	4	5	継続
スクラム研究会の実施	100	5	5	4	4	継続
主体的な遊びや体験を充実させる環境作り	100	5	5	5	4	継続
教諭・保育士対象各種研修会の実施	100	5	4	4	5	継続
平均	100.0	5.0	4.8	4.3	4.5	

### 5. 家庭教育支援の充実

各小中学校において親子で浜松学院大学の今井教授の講演を聴く機会を設け、「ゲーム障害・ネット依存」の問題について、保護者と、現状と課題を共有し、家庭教育支援の充実を図った。遊び塾・だれでも食堂もぐもぐ・家庭教育学級などでは家庭教育支援に係る場づくりができた。多様な居場所ができることで、保護者が安心して子育てができるよう支援した。こども未来課事業でも周知を図った。

来年度以降も関係課(学校教育課、社会教育課、こども未来課)と連携して取り組んでいく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
家庭教育支援の推進	90	5	5	4	5	継続
療育指導員による療育の推進と充実	100	5	5	5	4	継続
家庭教育学級への支援	70	5	5	4	4	継続
家庭教育支援員の配置	100	5	5	4	4	継続
平均	90.0	5.0	5.0	4.3	4.3	

## 6. 互いの人権を尊重し、思いやりを大切に教育への取組

日常の教育活動において子どもに寄り添った丁寧な指導を展開した。また、いじめ問題対策連絡協議会では、警察・福祉課・こども未来課・SC・SSW・小中学校生徒指導担当がいじめの防止等に必要事項を協議したり、連携調整を図ったりした。各校のいじめ防止基本方針の見直しも進めた。

来年度以降も互いの人権を尊重し、思いやりを大切に教育への取組を継続していく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
いじめ問題対策連絡協議会	90	5	4	5	5	継続
平均	90.0	5.0	4.0	5.0	5.0	

## 7. 探究的な学び・協働的な学びの深化

標準学力調査においては、全国平均正答率との差は学年によって異なるが、専門家による分析を行い指導の改善に生かした。また、上智大学奈須正裕教授を招聘し、各園小中学校で研修を行い、授業づくりの視点を共通理解した。来年度以降も基礎学力の向上と得意分野の伸長を図るための取組を継続していく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
市独自の学力調査の実施	100	5	5	5	5	継続
スクラムゼミナールの実施	100	5	5	4	5	継続
教職員対象各種研修会の実施	100	5	5	5	5	継続
外国語指導助手(ALT)及び英語活動指導員の配置	100	5	5	5	5	継続
ICT支援員の配置	100	5	5	4	5	継続
学習支援員等の配置	100	5	5	5	5	継続
平均	100.0	5.0	5.0	4.7	5.0	

## 8. ICT等の活用による新しい学びの展開

小学校3年生分のChromebook(※1)の更新購入を行ったり、浜松学院大学の今井教授を招聘して市内6校で講習会を行ったり、ネットパトロールを依頼している会社による講習会を行ったりすることで、児童生徒及び家庭での意識が高まっている。また、ICT支援員が週1回、各校を訪問し、環境整備や校内研修、授業支援の充実を図った。

今後も引き続き多方面からのアプローチにより、1人1台端末の効果的な活用を図っていく。

(※1)Chromebook：クロームブック、学習用パソコン

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
情報モラル学習の推進	100	5	5	5	5	継続
ICT支援員の配置	100	5	5	4	5	継続
学校のICT環境の向上	100	5	3	3	4	拡大
GIGAスクールの推進	100	5	5	5	5	継続
ICT周辺機器の安定稼働	100	5	5	4	5	継続
平均	100.0	5.0	4.6	4.2	4.8	

## 9. 健康教育を通じた体力の向上と健やかな体づくり

全国体力運動能力等調査を実施し、市内の子どもの運動能力・運動習慣を客観的に分析する良い機会となった。今年度、小中学生ともに全国平均値より高い結果であった。社会教育事業としては、軽スポーツ教室・大会や市町駅伝に向けての練習会を通じて、誰でも楽しみながら気軽にスポーツをする環境を提供することができた。

来年度以降も、全国体力運動能力等調査を継続するとともに、各団体とも協力し、スポーツ振興に取り組んでいく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
全国体力運動能力・運動習慣等調査の分析と活用	100	5	4	4	5	継続
軽スポーツ教室・大会の開催	100	4	4	4	4	継続
静岡県市町対抗駅伝への参加	100	5	4	4	4	継続
平均	100.0	4.7	4.0	4.0	4.3	

## 10. 特別な支援を必要とする児童生徒への教育の充実

特別な支援を必要とする児童生徒は年々増加しているが、就学支援委員会等でその子どもに合った学びを丁寧に検討し、各校では指導に生かしている。

来年度以降も不登校・特別な支援を必要とする児童生徒への対応について充実を図っていく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
個性伸長支援員の配置	100	5	5	5	5	継続
療育指導員による療育の推進と充実(再)	100	5	5	5	4	継続
「しおかぜ先生」の配置	100	5	5	5	4	継続
学習支援員等の配置	100	5	5	5	5	継続
就学支援委員会、個性伸長支援教育専門家チーム会議	100	5	5	5	5	継続
適応指導教室「サンルーム」	100	5	5	5	5	継続
平均	100.0	5.0	5.0	5.0	4.7	

## 12. ライフステージごとの学びの提供

ライフステージごとの学びの姿と場を示す「学びの航海図」を作成し、生涯学習ガイドブックを活用しての市民が学び続けることのできる仕組みづくりができ、講座数、受講者数も増加した。なお、シニアスクールでは、年間8講座を実施し受講者の満足度も高く地域とともにある学校づくりの推進につながっている。また、中学校で職業講座を実施し、地元の様々な職業人に触れ、生徒の夢や希望を広げている。

これらの事業について来年度以降も継続していく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
シニアスクールの実施	100	5	5	5	5	継続
キャリア教育の充実	100	5	5	5	5	継続
「おまえざき学びの航海図」の作成・活用と生涯学習講座等の充実	100	5	5	5	4	継続
社会教育学級活動への支援	80	5	4	5	4	継続
「学びの循環」の仕組みづくりの推進	100	5	5	4	4	継続
平均	96.0	5.0	4.8	4.8	4.4	

### 15. 新型コロナウイルス感染症への対応

学校においては、新しい生活様式を日常化し、感染予防の徹底に努めた。感染者が出た場合は、迅速かつ適切な対応を行い、感染拡大防止に努めた。社会教育事業においては、感染症対策に係る注意喚起を図るとともに、状況に応じ日程変更など感染拡大防止に努めた。

来年度は、感染症法上の扱いが2類から5類に引き下げられるため、社会の状況に応じて柔軟に対応する。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
「新しい生活様式」の実践	100	5	4	4	4	継続
学校や社会教育施設での消毒の徹底	100	5	5	5	5	継続
感染者への偏見・差別の防止PR	100	5	4	4	4	継続
平均	100.0	5.0	4.3	4.3	4.3	

### 16. 教職員の働き方改革の推進

出出勤管理を行い、時間外勤務の削減に努めた。各校、時間外勤務時間の減少傾向が見られる。また、夢コーディネーター(県教委事業)による学校の働き方改革によって、業務改善に努めている。

来年度以降も教職員の働き方改革の推進について継続していく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
県教委「学校の働き方改革推進プロジェクト」との連携	100	5	4	4	4	継続
各園・学校への調査	100	5	4	4	4	継続
各園・学校での取組への支援	100	5	4	4	4	継続
平均	100.0	5.0	4.0	4.0	4.0	

#### IV 御前崎市教育委員会の自己点検及び評価

重点取組の点検・評価した施策についての具体的な事業を自己点検評価シートにまとめました。

今年度執行予定の事業を、今年度3月末までにどれだけ遂行できたかを「執行度」として0～100%で表しています。

◎点検・評価について ○妥当性 5・・・非常に高い // 4・・・高い // 3・・・どちらともいえない // 2・・・低い // 1・・・非常に低い ○効果性・効率性も上記に準じて評価しています。	◎今後の方向について ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤転換 ⑥中止
---	--

##### 5-1-1 スクラムによる市全体の教育力の向上

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
総合教育会議・移動教育委員会の実施 (教育総務課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	3	総合教育会議を2回開催した。第1回は「令和4年度全国学力学習状況調査、標準学力調査の結果について、今回の結果を分析・考察した報告、前年調査との比較による課題等を共有しながら、市長の教育に関する考えを確認するとともに、市長と教育委員で意見交換をすることができた。第2回は、来年度の具体的教育施策について協議した。 移動教育委員会を1回開催した。学校ICT担当職員と教育委員、保護者代表が話し合い、御前崎市の教育におけるICT活用の現状と課題を把握した。	①継続 教育、文化の振興に関する重要施策について引き続き検討を重ねる必要があることから、年2回の総合教育会議は継続する。また、各分野の現場の意見を聞く機会として移動教育委員会も継続して開催していく。
事業の妥当性	4												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	3												
スクラム・スクール運営協議会 (学校教育課)	1	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	御前崎市スクラム・スクール運営協議会を2回開催し、子どもたちの生活習慣の課題として「早寝早起き朝ご飯など基本的な生活習慣」「ゲーム障害・ネット依存」の問題について現状と課題を共有した。また、学校スクラム・スクール運営協議会を各校で2～3回開催し、各校の現状と課題について、学校・家庭・地域が協議した。さらに、学校スクラム・スクール運営協議会において浜松学院大学 今井昌彦教授の講演会を開催し、親子で「ゲーム障害・ネット依存」の問題について考える場を設けた。メディアの長時間利用の割合は改善が見られないが、「早起き」「朝ごはん」ができる児童生徒の割合は全国平均よりも高い状況である。	①継続 全国学力・学習状況調査や標準学力調査の質問紙調査結果において、ネットの長時間利用率が、全国平均に比べて小中学校ともに10ポイント程度多い状況が続いているため、市の一体的な取組として、スクラム・スクール運営協議会の活動を継続する。
事業の妥当性	5												
効果性	4												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向	
シニアスクールの実施 (学校教育課)	12	100%	事業の 妥当性	5	<p>全8講座を、実施した。浜岡中33人、白羽小24人の参加があった。今年度は小学生との交流も浜岡中2回、白羽小3回実施した。今年度は、コロナ前と同様、小学生と一緒に学ぶ機会を一部の講座で設けることができ、「地域とともにある学校づくり」の推進に繋がった。</p>	<p>①継続</p> <p>浜岡中、白羽小の2会場で8講座を実施する。講座の内容については、シニアの代表者と協議して参加者の満足感と意欲の向上につなげる。</p>
		効果性	5			
		効率性 (コスト)	5			
		効率性 (人員)	5			
ウェブサイトなどによる広報活動の充実 (教育総務課・学校教育課・社会教育課・各学校・図書館)	-	100%	事業の 妥当性	5	<p>教育委員会定例会、臨時会の会議録をウェブサイトに掲載し、奨学金等の既存の情報についての見直しを行った。なお、御前崎市学校再編策定検討については、情報掲載を継続するとともに、マスコミへの取材依頼も実施し、情報発信に努めた。</p>	<p>①継続</p> <p>市民への情報提供は、施策立案の上でも重要な業務であることから、市民の理解や協力を得られるよう、ウェブサイトやLINE等を活用し、今後も随時、情報を発信する。 市民が受け取りやすく、理解しやすい情報の発信の実施に努めるとともに、Logoフォーム(※2)の活用等による意見や情報の収集についても検討する。</p>
		効果性	4			
		効率性 (コスト)	4			
		効率性 (人員)	4			

(※2)Logoフォーム：電子申請システム

学校支援地域本部〔地域学校協働本部〕 (学校教育課)	-	100%	事業の 妥当性	5	<p>園・学校の要望に応じて、登録ボランティアを派遣している。園・学校からは、継続してボランティア派遣の依頼があり、地域の貴重な人材を活用することができている。今年度は、建設業組合による環境整備や家庭科授業へのミシンボランティア、待機看護師の派遣、中学校技術科木材加工への支援などが行われた。2人の地域コーディネーターが主となり、205人35団体の登録ボランティアと園・学校との橋渡しを行い、地域全体で学校教育を支援することができた。</p>	<p>①継続</p> <p>園・小・中からのニーズは多岐に渡り、欠かすことのできない組織となっている。地域の人材を活用することで開かれた学校運営にもつながっている。今後も各園・各校のニーズに応えられるように、新たなボランティアを開拓し、学校支援地域本部を継続していく。</p>
		効果性	5			
		効率性 (コスト)	5			
		効率性 (人員)	5			

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
防災教育の推進 (学校教育課)	-	70%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	<p>各園・各校の防災対策マニュアルを、「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3つの領域についての対策が記載されているか、または策定されているかの観点をもとに、チェック表を使いながら確認し、3つの領域に関する体制や対策の見直し・点検を行った。また、災害安全教育については県で推進しているジュニア防災士の資格取得を推奨し、小学校1校、中学校2校が実施した。中学校区の異校種間の引き渡し訓練については、コロナの状況により各中学校区で判断して実施した。</p>	<p>①継続</p> <p>これまでのように、地域防災訓練への参加を各校で呼びかけ、児童生徒が参加できるようにする。ジュニア防災士などの県の事業も活用しながら、授業や学級活動などで防災についての内容を取り入れ、地区で活躍できる中学生(小学生)の育成を図る。防災教育推進についての連絡会議等の実施を進め地域とも連携を図っていく。</p>
事業の妥当性	4												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	5												
キャリア教育の充実 (学校教育課・社会教育課)	12	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>CS(コミュニティスクール)ディレクターによって平成30年度に両中学校のキャリア教育の体制が整った。職業講座を実施し、地元の様々な職業人から仕事の内容ややりがいについて話を聞き、生徒自身の将来の夢や人生について考える機会を設定した。働く人の思いや願いに触れ、望ましい職業観の育成に繋がった。</p>	<p>①継続</p> <p>職業体験や職業講座など開かれた教育課程を実現していくためにも、体験や講座の内容を工夫し、職業観や生き方について考える場を設ける。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												

5-1-2 人としての根を養うための、市の特色を生かした教育の推進

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
園の読書環境の整備 (学校教育課)	3	100%	<table border="1"> <tr><td>事業の妥当性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>5</td></tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>子どもの発達や興味に合わせた毎日の絵本の読み聞かせや貸し出しは各園で定着し、継続して行われている。また子どもたちが園生活において絵本に興味をもち、手にとりやすい環境の工夫や子どもにふさわしい絵本の提示も研修などを通して進んでいる。保護者に対して読み聞かせの大切さを園だよりや参観会等、様々な機会を通して発信し、幼児期における読み聞かせの大切さを啓発した。</p>	<p>①継続</p> <p>子どもたちが絵本に触れたり、興味が持てたりできる機会や環境整備の充実を継続する。親子の触れ合いのツールとして読み聞かせの効果について引き続き、発信していく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												
学校における読書活動の推進 (学校教育課)	3	100%	<table border="1"> <tr><td>事業の妥当性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>5</td></tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>今年も継続配置で市立図書館職員1人が学校図書館司書として勤務した。合計4人の司書が各小中学校で図書担当職員と協力して読書活動の推進を行った。年2回の学校図書館連絡会の開催では、県立中央図書館職員を招き、低学年～中学年への読書案内についての講話を聞いたり、ポプラ社より百科事典を活用した指導の充実についてのアドバイスをいただいたりした。各校の取組について情報交換し、読書活動の活性化に役立てることができた。</p>	<p>①継続</p> <p>学校図書館連絡会での講話内容をニーズに合わせて依頼する。 今年度にも引き続き、クロムブックのクラスルームを活用し読書推進に関する情報をいつでも共有できるようにする。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												
市立図書館と学校図書館との連携 (図書館・学校教育課)	3	100%	<table border="1"> <tr><td>事業の妥当性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>5</td></tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>市立図書館職員と各小中学校の図書担当が連絡を取り合いながら、工夫した取組を行うことができた。例えば巡回貸出やテーマ貸出、市立図書館企画イベントの呼びかけなど子どもたちが本と触れ合う機会を意識して活動できた。市立図書館への来館を促すイベントの案内を市のLINEでも配信し、図書館に足を運ぶ機会を作ることができた。学校図書館だけではできないことが、市立図書館と連携することによって豊かな読書活動を行うことができた。</p>	<p>①継続</p> <p>「子どもたちが本と親しむまち御前崎」を目指し、学校図書館連絡会や各学校との話し合いの場を通して、引き続き市立図書館と学校図書館相互の連携を図り、読書活動を推進していく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												
市内各小学校における海洋スポーツ体験活動 (社会教育課)	2	100%	<table border="1"> <tr><td>事業の妥当性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>3</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>4</td></tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	4	<p>市内全小学校に対し、御前崎マリンスポーツクラブと連携しながら海で安全な行動が出来るような教室を開催した後、海洋体験(カヌー、SUP(※3)など)を実施している。御前崎市の地域資源を活かした海洋性スポーツの普及や、地元で愛着や誇りを持つことによるシビックプライドの醸成に繋げることが出来ている。</p>	<p>①継続</p> <p>御前崎の海の良さを体感してもらい、地元で愛着を持ってもらえるよう引き続き全小学校で実施していく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	3												
効率性(人員)	4												

(※3)SUP : サップ、サーフィンの様な大きめのボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進んでいくスポーツ

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
学習指導要領に沿った地域教材の改訂及びデータ化 (学校教育課)	2	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	3年生以上の1人1台タブレットPCの使用が可能になり、これまで冊子にして使用していた社会科副読本をPDF化してタブレットで使用できるものへ改訂を行った。社会科副読本作成委員の先生方と業務委託業者と連絡を取りながら内容の改訂をすすめることができた。年度末までに作成が完了する。	②完了	4年ごとに情報の更新がないか確認する改定作業を行っていく。今後、教科書がデジタル化される方向にあるため、社会科副読本についてもデジタル化をさらに進めていく必要がある。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	5													
青少年リーダー育成事業「御前崎クエスト」の実施 (社会教育課)	2	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	小学生の低学年のキッズプログラムが新設され、親子→成人までの御前崎クエストを通した学びのサイクルができた。キッズ19名、ジュニア51名、ユース14名、ファミリー7家族18名 合計102名が活動を実施した。 異学年集団による自然体験・地域資源を活かした活動を通じ、地域愛の醸成ができた。	③拡大	今後も地域資源を活かした事業による人材育成を継続する。 幅広い年代の方々を受け入れる体制づくりを検討するとともに、更なる「御前崎クエスト」への周知や関心の促進を図る。 新設される中学生を対象としたジュニアユースプログラムの募集や体制を構築する。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
情報モラル学習の推進 (学校教育課)	8	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	浜松学院大学 今井昌彦教授を招聘して、「メディアとの安全な付き合い方」について児童生徒・保護者に対する講演を、小中学校6校(小学校5校、中学校1校)で行った(御前崎中学校は静岡大学塩田研修室の安池太地氏を招聘)。今年度は公立園7園も今井教授の講演会を実施した。さらに、ネットパトロールを依頼している会社(NPO法人e-lunch)による講演を全校で行った。各園・各校の指導によって、メディアと安全に付き合って生活する方法について、家庭で考えるきっかけ作りができています。	①継続	スクラム・スクール運営協議会で取り組んでいる「ネット依存やゲーム障害」から子どもを守る活動を推進する取組を今後も実行する。児童生徒、保護者に実施したネット利用状況アンケートをもとに、児童生徒・保護者それぞれに対する支援を進めるため、事業を継続する。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
家庭教育支援の推進 (学校教育課)	1・5	90%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	御前崎市スクラム・スクール運営協議会を2回開催し、子どもたちの生活習慣の問題として「ゲーム障害・ネット依存」の現状と課題を園・学校・家庭・地域の代表と共有した。また、社会教育課と連携し、「スクラム御前崎の集い」を開催し、家庭教育支援を推進した。 学校スクラム・スクール運営協議会では、親子で浜松学院大学 今井昌彦教授の講演を聴く機会を設け、「ゲーム障害・ネット依存」の問題について、保護者と現状と課題を共有し、家庭教育支援の充実を図った。	①継続	全国学力学習状況調査及び標準学力調査の質問紙調査から、本市の子どもたちはネットを長時間利用する割合が全国平均より高い状態が続いている。今後も家庭教育支援を推進し、子どもたちの生活習慣の課題を解決するため、事業を継続する。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	5													

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
サポート隊の 推進 (社会教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	4	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	4	<p>地域で子どもたちを守り育てる運動の一環として、969人のサポート隊員によって登下校時の見守りと声かけを地域全体で行なった。サポート隊活動の安全性確保のため、反射材付きのビブスの配布も行った。不審者情報は年間6件と例年同程度の数で推移しており、事件等につながった事例はなく、活動が抑止力となっている。</p> <p>サポート隊の実態を調査するためアンケートを実施し、今後の取組へ活かしていく。市の感謝状規程により、地区センターからの推薦を経て永年活動しているサポート隊(20人)へ感謝状を贈呈した。</p>	①継続	<p>今後も地域と連携し、地域で子どもを守り育てる見守り活動を継続していく。サポート隊の継続的な活動を促すため、アンケート結果を踏まえた活動の見直しや、感謝状贈呈を継続していく。</p>
事業の 妥当性	5													
効果性	4													
効率性 (コスト)	5													
効率性 (人員)	4													
こども110番の 家の推進 (社会教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	4	効率性 (コスト)	4	効率性 (人員)	4	<p>市内小学校PTAが中心となり、学区内の商店等に参加の継続・新規登録を確認し、今年度は428件の登録があった。</p> <p>また、「こども110番の家」の旗を目印としていつでも子どもたちが助けを求められる体制をとっている。地域及び子ども向けに活動を周知するチラシを配布し、共通認識をもつよう努め、子ども達の安全安心を確保できた。</p>	①継続	<p>子ども達が安心して暮らせる地域づくりのために一般家庭や商店、事業所などに掲示するオリジナルステッカーの作成を研究する。</p>
事業の 妥当性	5													
効果性	4													
効率性 (コスト)	4													
効率性 (人員)	4													
声かけ運動の 推進 (社会教育課) ※静岡県事業	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	4	効果性	4	効率性 (コスト)	4	効率性 (人員)	5	<p>県が実施している「地域の青少年声掛け運動」に協働し、参加者を募っている。園・学校・市職員・地区役員等の新規賛同者を広める活動をした結果、今年度新たに95人の新規参加者を迎え、累計登録者は5,372人となった。青少年は地域で育てる意識を醸成できた。</p>	①継続	<p>組織的な運動ではなく、個人的な活動のため、青少年健全育成会議において個々の取組を地域や学校などへ共有し、運動の趣旨を植え付けていく。</p>
事業の 妥当性	4													
効果性	4													
効率性 (コスト)	4													
効率性 (人員)	5													
青少年補導員 活動の実施 (社会教育課)	-	80%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	4	効果性	3	効率性 (コスト)	3	効率性 (人員)	3	<p>花火大会、夏季と冬季の県下一斉補導、はたちの集いでの巡視をし、青少年の非行防止活動が実施できた。</p>	④縮小	<p>SNSなどのネットで子どもたちの誹謗中傷からいじめに発展するなど、問題が起きている。今後は、インターネットやSNSのルールについて補導員間で情報共有し、地区の会議の場で発信していく。</p>
事業の 妥当性	4													
効果性	3													
効率性 (コスト)	3													
効率性 (人員)	3													

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
「スクラム御前崎の集い」の開催 (社会教育課・学校教育課)	1	90%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>令和3年度から、スクラム・スクール運営協議会と共催し、学校、家庭、地域、行政が連携して子どもを守り育てるための講演会を開催している。</p> <p>今年度は東北大学 瀧靖之教授による「スマホ・ネット依存、ゲーム障害から子ども(家庭)を守る講演会」と、御前崎クエストの活動報告を行い、青少年健全育成において様々な体験活動の大切さを地域へ伝え、機運を高めた。</p>	⑤転換	<p>来年度もスクラム・スクール運営協議会での重点取組である「ゲーム障害・ネット依存防止」に向けた取組を、青少年健全育成の観点から連携し取り組む。</p> <p>今後は、具体的な実践事項を子ども達と大人と一緒に協議決定することで、地域一丸となった子どもを守り育てる活動としていく。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													
「はたちの集い」の開催 (社会教育課)	-	80%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>令和4年4月に民法改正により「成人式」を「はたちの集い」と名称を変更し実施した。昨年度は感染症対策により2会場開催だったが、健康チェック表など感染症対策を講じ1会場で実施した。358名中268名の参加があった。</p> <p>昨年同様フォトスポット(市内6ヶ所)を設置し記念撮影の場として新成人が改めて訪れることで地域の魅力の再認識する機会となった。なお、フォトスポットをめぐるスタンプラリーを実施した。景品は商工会と連携し20歳を祝う協賛店を募集し店舗特典を受けることができるようにした。</p>	⑤転換	<p>令和4年4月の民法改正により成人年齢が引き下げとなるが、引き続き20歳という人生の節目を祝う式典として開催していく。来年度以降実行委員会を組織し、式典内容やニーズに合った記念品の見直しを実施する。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													
親子工作教室の実施 (社会教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	<p>21家族46名の小学生親子の参加があった。今年度で39回目を迎えた歴史ある教室であり、木のぬくもりを親子で体験できる貴重な場となっている。</p> <p>また、市内木材業者から資材の提供を受け、地元大工業者12名に指導者として全面協力していた。毎年参加している親子もおり、親子の交流促進がなされている。また、地域の方が指導する中で交流が生まれ、募集開始とともに定員となる人気のある教室である。</p> <p>今年度も親子共同作業をとおし親子のふれあいが図れた。</p>	①継続	<p>「生涯学習ガイドブック」に掲載し、広く周知するとともに、学びの循環の一つであることを意識し、今後も事業を継続する。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	4													
市青少年健全育成会議・地区推進委員会の開催 (社会教育課)	1	70%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>青少年健全育成会議は地域、学校、行政の関係者で組織しており、会議では地域の青少年を取り巻く現状課題、重点取組を情報共有している。各地区の推進委員に対し、市重点取組「早寝早起き朝ご飯など基本的生活習慣の啓発」「ゲーム障害やネット依存への対策」を明記したものを通知し、各種地区組織への周知が図られた。</p>	①継続	<p>今後も地区推進組織と情報共有を図り地域全体で青少年健全育成に取り組む。</p>
事業の妥当性	4													
効果性	5													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													

5-2-1 生きていく力の基礎の育成

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
主体的な遊びや体験を充実させる環境作り(学校教育課)	4	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	子どもたちの興味や関心、育ちを捉え、主体的な遊びや体験を積み重ねていくために、玩具の素材と玩具の選定や配置、今日から明日へつなぐ遊びや活動のしかけなどについて、研修などを通し学び、各園、各自が工夫しながら取り組んでいる。	①継続	幼児理解、子どもの豊かな学びに繋がるしかけなど「夢中になって遊び込む子」を目指し、実態や発達に応じた環境やしかけについて研修を継続していく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	4													
【再掲】園の読書環境の整備(学校教育課)	3		<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td></td> </tr> </table>	事業の妥当性		効果性		効率性(コスト)		効率性(人員)				
事業の妥当性														
効果性														
効率性(コスト)														
効率性(人員)														
地域の教育力を生かした保育の推進(学校教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	地域への園外活動や行事、活動の協力等子どもたちの学びや育ちに必要なることを精査し、工夫しながら各園で行っている。園の環境整備のボランティア等、様々な角度から地域の方が園を支えてくれる関係が構築され、地域の人・もの・ことに触れる活動の推進が図られている。	①継続	園からも地域に向けて積極的な呼びかけや発信をしていったり、学校支援コーディネーターに依頼したりしていき、地域と繋がる、地域に根付いた園を目指す。
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													
教諭・保育士対象各種研修会の実施(学校教育課)	4	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	今年度各園でネット環境を整備したことで、オンライン研修を取り入れることができ、有効かつ効率的な研修が行われた。乳児研、実技研、支援員研、リーダー研、副園長研とキャリアや立場に応じた研修を実施したことで保育実践に役立つことができた。	①継続	幼児理解、子どもの豊かな学びに繋がるしかけなど各職員の保育力の質の向上が求められている。園再編など市の園が大きく変化する中であっても、歳児別やキャリア別の研修を実施し、職員の主体的な研修への意識を高めていく。
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	5													

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
【再掲】 家庭教育支援 の推進 (学校教育課)	1 ・ 5		事業の 妥当性		
			効果性		
			効率性 (コスト)		
			効率性 (人員)		
アプローチ・ス タートアップ ブックの活用 (学校教育課)	4	100%	事業の 妥当性	5	①継続  内容が厳選されま とまってきたので、大 きな変更はせず、修 正を加えてできるだ けコストを抑え作成し ていく。各小学校の 入学説明会での保 護者に向けての配布 と講話は継続してい きたい。園・小学校の 公開保育や公開授 業に互いに参加しあ い、具体的な子ども の姿から幼小の接続 についての理解を深 めていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	5	
巡回相談、教 育相談の実施 (学校教育課)	-	100%	事業の 妥当性	5	①継続  今年度同様、来年 度も園や学校が必要 な時期に巡回相談が できるように希望調 査を取って計画して いく。 教育相談について は、メールでの案内 配信や申込を電子申 請で継続することで 気軽に利用できるよ うにしていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
			<p>年度内に小学校5校の入学説明会に出向き、説明しながら配付した。園から就学へ向けての支援を丁寧に行い、子どもや保護者の安心につながる働きかけを充実させた。</p> <p>家庭教育で大切にしてほしい「早寝・早起き・朝ごはん」や「ネット依存・ゲーム障害」のスクラムの取組についても掲載しているので、市が一体となって取り組んでいることについて呼びかけを行うことができた。</p> <p>また、幼小接続の重要性については、スクラム研究会での研修を通して、園・小の職員の意識を今年度さらに高めることができた。</p>		
			<p>巡回相談では園や各校のニーズに応じて効果的な相談ができた。回数増の要望はあるが、予算の関係で年2回ずつが妥当と考える。</p> <p>教育相談は、案内の方法や申込方法をメール配信、電子申請に変更した。新規の申込もあり、学校や保護者の負担を軽減できた。相談内容をできるだけ早く各園や学校に伝えることで情報の共有ができ、適切な支援につながった。</p>		

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
個性伸長支援員の配置 (学校教育課)	10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>個別の支援を要する子が年々増加傾向にあり、対応についても複雑化してきている。各園3歳以上には歳児ごと支援員1名以上を配置できている。しかし、支援を要する子が1クラスに複数いたり、長時間利用児や乳児への支援が必要となってきたりする現状にある。支援員の適切な配置とともに、児に応じた支援の仕方について研修などで学びを充実させ、資質能力の向上に努めていくことが喫緊の課題である。</p>	<p>①継続</p> <p>引き続き保育士の確保に努めるとともに長時間保育での必要に応じた支援員や1～2歳児への支援員の配置を検討する。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												
療育指導員による療育の推進と充実 (学校教育課・こども未来課)	5・10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	<p>学校教育課とこども未来課で連携を図りながら乳幼児の療育をすすめる充実させることができた。園訪問を実施することで園との連携もでき、教職員へのアドバイスや子どもの実態把握にも努めた。療育教室「ほっとケーキ」の参加人数が年々増えているため、療育指導員の人材確保、スキルアップが今後必要となる。発達相談を希望する保護者も増えてきているので、発達検査ができる療育指導員を確保、また育成し対応していく必要がある。</p>	<p>①継続</p> <p>早期療育に対する保護者への理解や啓発は引き続き丁寧な働きかけが必要である。療育指導員の園訪問や療育教室事業、相談事業を充実させるとともに、園での支援の底上げに力を入れていく必要がある。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	4												
園職員の確保 (学校教育課・総務課・こども未来課)	-	90%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>御前崎市の乳幼児教育を理解し、継続して就労する会計年度任用職員が多く、1～5歳児クラスに支援員を配置することができた。乳児からの長時間就園、個別支援を要する園児の増加の一方で、少子化、両親の就労による幼稚園への就園の減少の為、園の再編計画が進んでいる。見直しを持った配置が必要となる。</p>	<p>①継続</p> <p>今後の御前崎市公立園の再編に見直しを持ちながら、安心安全な園運営、子どもの豊かな育ちを支える保育・教育の実現の為に、こども未来課・学校教育課・総務課と連携を図り、担任プラス支援員の配置をしていく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												

5-2-2 変化の激しい今後の社会を生き抜くための資質・能力の育成

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
市独自の学力調査の分析と活用 (学校教育課)	7	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	4月に小学校2年生から5年生、中学校1年生・2年生を対象に学力調査及び質問紙調査を実施した。静岡大学 村山功教授に御指導いただき、結果を分析し市全体・各学校・児童生徒の課題を明らかにし、指導の改善に生かすことができた。分析の結果から、算数・数学の基礎的な学力は改善傾向にあり、活用する力に課題があることがわかった。一方で国語は基礎的な学力、活用の力ともに改善が必要であることがわかった。このようなことを踏まえ、授業改善に生かすことにつながっている。また、保護者にも早い段階から学習状況について知らせることができ、家庭学習や生活習慣について見直す機会となっている。	①継続 子どもたちの現状や当市の教育の今を客観的に知る上では重要なものであり、授業改善や家庭支援につながる資料となっている。来年度も今年度同様に実施し、子どもたちの学力向上につなげていく。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												
全国体力運動能力・運動習慣等調査の分析と活用 (学校教育課)	9	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	市内の子どもたちの運動能力・運動習慣を客観的に分析するよい機会となっており、今年度、小中学生ともに全国平均値より高い結果であった。分析結果をもとに、市全体・各学校・児童生徒の課題を明らかにし、改善に向けて取り組んでいる。	①継続 学力と同時に子どもたちの体力の状況等についても分析・活用し、心身ともに健やかな成長の支援に繋げる。
事業の妥当性	5												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	5												
スクラム研究会の実施 (学校教育課)	4	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	3年ぶりに上智大学の奈須教授を招聘し実施することができた。「主体的な遊びを通して人として生きていく力の基礎の育成」”遊び込む子”をめざし、実態やねらいにあった環境や援助はどうあるべきか、公開保育を通し、視点に沿った協議が行われた。指導講評では御前崎市の幼児教育の方向性が間違っていないこと、個票から個の読み取りの力について評価していただいた。また小中学校の先生も参加したことで、子ども観や教育観の共有、また幼小の接続も含めた「途切れない教育」に繋がる研究会となった。	①継続 子ども一人一人の物語が語れるよう一人一人の良さを見つけ、個を大切に丁寧で温かな保育を継続していく。また園で大事にしていること、育てていることを引き続き公開保育や研究会を通し、小中学校へ積極的に発信し、共有していくことで「途切れない教育」を遂行させていく。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
スクラムゼミナールの実施 (学校教育課)	7	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	<p>新学習指導要領策定に携わった上智大学奈須正裕教授を招聘し、各小中学校で研修を行った。奈須教授による授業参観や講話を通し、「資質・能力ベースの授業」へと授業観を学ぶ貴重な機会となった。また、他校へのスクラムゼミナールへ積極的に参加する職員も多く、授業づくりの視点を市内各校の教員で共通理解を図ることができた。昨年度はリモートによる実施が大半であったが、今年度は対面での実施ができ、より具体的な指導を受けることができた。</p>	①継続	来年度も訪問による実施を進め、さらに各校の授業改善を進める。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	5													
教職員対象各研修会の実施 (学校教育課)	7	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>教職員の分掌等に応じた各種研修会を年間計画に位置付け、実施した。授業改善推進委員会では、御前崎市授業改善テーマの実現に向け、子ども主体の授業づくりに向けて具体的な実践をイメージした協議ができた。ICT推進委員会では、昨年度からスタートしたGIGAスクール構想(※4)の実現に向けて、1人1台端末の効果的な活用について研修を進めた。3年目教員は、学力向上コンサルタントの指導のもと、教育実践を研究論文にまとめ、教育団体の教育研究奨励賞に応募、表彰され若手教職員の自信や意欲向上につながった。</p> <p>それぞれの研修は、各立場の市内の教員が情報交換できる機会でもあり、共有された研修内容を各校で広め、深化させることで、「スクラム御前崎」の浸透が図られるように実施してきた。</p>	①継続	教員等育成指標に基づき、新学習指導要領の実施に向け、経験及び職務別に求められる資質能力の育成が図れるようさらに内容を充実させていく。各種研修会における目標を明確にし、達成するための手立てや達成状況を学校教育課内で共有していく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													

(※4)GIGAスクール構想:1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークの整備

外国語指導助手(ALT)及び英語活動指導員の配置 (学校教育課)	7	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>ALT2人と英語活動指導員、英語専科教員を各1人ずつ小中学校に派遣し、小学校外国語活動・外国語の充実を図った。ALTと英語活動指導員、英語専科教員がいることで、子どもたちが生の英語に触れ、楽しく学習できている。また、教職員が外国語の授業づくりについて研修を深め、ALTを効果的に活用している。</p>	①継続	英語専科教員の配置を継続し、英語専科配置がない学校にはALTまたは英語活動指導員を配置していく。ALT等の持ち時数に偏りがないように計画的な配置をしていく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
ICT支援員の配置 (学校教育課) (教育総務課)	7・8	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	ICT支援員が全校配置となつてから4年目となる。今年度からは各校毎週1回の支援に増やし、授業をはじめ、1人1台端末の活用を着実に支援した。ICTが苦手な教職員もいるため、高く評価されている。	①継続	1人1台端末の活用に向けて、環境整備や校内研修、授業支援の充実を図っていく必要がある。専門家であるICT支援員の配置は必須となる。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	5													
【再掲】 情報モラル学習の推進 (学校教育課)	8		<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td></td> </tr> </table>	事業の妥当性		効果性		効率性(コスト)		効率性(人員)				
事業の妥当性														
効果性														
効率性(コスト)														
効率性(人員)														
エネルギー教育の推進 (学校教育課)	2	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	小学生が、浜岡原子力発電所を見学し、原子力発電のしくみや安全対策の様子を中部電力職員から説明を受けた。また、各小中学校では、理科や社会科の授業等で各発電のしくみや社会とエネルギーの関係などについて、中部電力株式会社職員をゲストティーチャーに迎え出前講座を実施した。	①継続	電源立地市の市民としてエネルギーについて自ら考え判断する力を身につけるためにも継続する。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
【再掲】 学校における読書活動の推進 (学校教育課)	3		<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td></td> </tr> </table>	事業の妥当性		効果性		効率性(コスト)		効率性(人員)				
事業の妥当性														
効果性														
効率性(コスト)														
効率性(人員)														

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
【再掲】 市立図書館と 学校図書館と の連携 (図書館・学校 教育課)	3		事業の 妥当性		
			効果性		
			効率性 (コスト)		
			効率性 (人員)		
「しおかぜ先 生」の配置 (学校教育課)	10	100%	事業の 妥当性	5	①継続  不登校の早期対応のために、相談役の教員の配置を継続し、その効果を検証する。不登校の早期対応を充実させるために、校内適応指導教室への配置について今後も継続するとともに、必要な人材確保に努める。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	4	
学習支援員等 の配置 (学校教育課)	10	100%	事業の 妥当性	5	①継続  年々、通常学級における特別支援を要する児童生徒が増加傾向にあり、学習支援員の必要性はますます高まっている。各校の要望を聞き、効果的な配置にする。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
いじめ問題対 策連絡協議会 (学校教育課)	6	90%	事業の 妥当性	5	①継続  いじめの積極的な認知と丁寧な指導を進めていくために、法に基づく環境整備に努める。
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向	
【再掲】 シニアスクール (学校教育課)	13		事業の 妥当性			
			効果性			
			効率性 (コスト)			
			効率性 (人員)			
家庭教育学級 への支援 (社会教育課)	5	70%	事業の 妥当性	5	今年度はコロナのために活動が 縮小しているが、補助金を活用し て4学級が開設し、演劇鑑賞や親 子工作など親子活動を通して家 庭教育の支援ができた。	①継続  今後は、各園、学 校が継続的な学習活 動を推進できるよう支 援する。 また、充実した学習 活動を図るため、園 長会等で情報交換 する。
		効果性	5			
		効率性 (コスト)	4			
		効率性 (人員)	4			
家庭教育支援 員の配置 (社会教育課)	5	100%	事業の 妥当性	5	家庭教育支援員は、幼稚園教 諭や保育士OBを中心に6名委嘱 し、家庭教育に資する事業を実施 している。 共働き親子へ夕食を安価で提 供する事業「だれでも食堂もぐも ぐ」は、民間団体へ上限15,000円 を補助している。今年度は「加多 世(毎月1回)」「マツイ学園(年2 回)」「ありがとう(年2回)」に加え 、「合亀」が初開催され全体で30人 の参加があった。また、子育て 家庭への支援・相談の機会とし て、親子を対象にした「あそび塾」 を開催し60人の参加があった。 両活動へ家庭教育支援員が参 画することで、親同士の交流や、 家庭教育支援員への相談機会が 増えた。	①継続  「もぐもぐ」は、各地 区1団体を目指し活 動の周知をしていく。 「あそび塾」も、必 要な親子に情報が届 くように、子ども未来 課とも連携し取り組 みを進めていく。各 地区1名の家庭教育 支援員の増員を目指 す。
		効果性	5			
		効率性 (コスト)	4			
		効率性 (人員)	4			
【再掲】 巡回相談、教 育相談の実施 (学校教育課)	-		事業の 妥当性			
			効果性			
			効率性 (コスト)			
			効率性 (人員)			

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
就学支援委員会、個性伸長支援教育専門家チーム会議の実施 (学校教育課)	10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>就学支援委員会では、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、進路も見据えて適切な学びの場を提供することができた。新学齢児の就学支援について、園担当指導主事、園、学校が連携を図り見直しをもって丁寧な就学支援を進めることができた。</p> <p>専門家チーム会議は年2回行い、個の実態を把握した上で、より良い支援の方法について話し合うことができた。</p>	①継続	<p>年度初めのコーディネーター研で1年間の流れや資料の作成の仕方、適切な学びの場の判断基準など、就学支援に関わる内容について毎年丁寧に周知を図っていく。また、専門家チーム会議を活用し、通常学級の中での支援や通級指導についてアドバイスいただき指導を充実していく。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
適応指導教室「サンルーム」の設置 (学校教育課)	10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>今年度2月末時点で、13名の児童生徒が学んでいる。週1回程度、チャレンジ登校を行ったり、復帰した児童生徒の支援を目的に学校支援を行ったりした。学校へ足が向かない生徒も適応指導教室での生活で、自主的に学習に取り組んだり、対人関係を築いたりすることができている。</p>	①継続	<p>学校に通うことが難しい児童生徒の最後の砦として必要なため、学校との連携を密にし、不登校児童・生徒宅への家庭訪問等の働きかけも積極的に行う。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
【再掲】 アプローチ・スタートアップブックの活用 (学校教育課)	4		<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td></td> </tr> </table>	事業の妥当性		効果性		効率性(コスト)		効率性(人員)				
事業の妥当性														
効果性														
効率性(コスト)														
効率性(人員)														
学校のICT環境の向上 (教育総務課)	8	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	3	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	4	<p>小学校3年生の学習者用端末をChromebookに更新し、1人1台端末下の共同学習の均一化が進んだ。また、AIDリルや授業支援機能を活用できるソフトウェアを導入し、個別最適化学習の方向に進んでいる。</p>	③拡大	<p>令和6年度のデジタル教科書の導入に向け、学習環境の整備をする必要がある。ICT機器利用実績及び学校ニーズを踏まえ、1人1台端末下のICT環境の整備を更に推進していく。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	3													
効率性(コスト)	3													
効率性(人員)	4													

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
GIGAスクールの推進 (学校教育課) (教育総務課)	8	100%	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="531 226 624 309">事業の妥当性</td> <td data-bbox="624 226 695 309">5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="531 309 624 392">効果性</td> <td data-bbox="624 309 695 392">5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="531 392 624 474">効率性(コスト)</td> <td data-bbox="624 392 695 474">5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="531 474 624 560">効率性(人員)</td> <td data-bbox="624 474 695 560">5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	一人一台端末を活用した学びを充実させるために、クラウドの活用や授業支援ソフトウェアの活用が進んでいる。御前崎市授業改善テーマである「子ども自身が学びを実感する授業」づくりが進む中で、子ども自身が活用方法を選択するなど、学び方の幅が大きく広がっている。	①継続 これからの時代に必要な資質・能力を育成するために、GIGAスクール構想の推進は必須となる。クラウドを活用した学びの充実や個別最適化された学びをより充実させていくことで子どもの学力向上に取り組んでいく。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												

5-2-3 子どもたちが可能性に挑戦できる教育環境の整備

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向	
利便性の高い学校施設の創造 (教育総務課)	-	100%	事業の妥当性 4	効果性 4	御前崎小学校周辺用地の買入れ、その一帯用地内にある建物の解体工事を行った。不足している御前崎小学校関係者駐車場について、一定の解消がされた。	①継続  その他の学校について、利便性の高い学校施設となるよう考察を続ける。
			効率性(コスト) 4	効率性(人員) 5		
安全安心な教育環境の向上 (教育総務課)	-	100%	事業の妥当性 5	効果性 5	コロナ禍の中、三密を避けるため分散授業ができるよう、使用率の高い特別教室のエアコン整備を行った。また、特別支援教室等クラス増に対応する整備を行った。 長寿命化計画に沿って、第一小学校給水管更新工事と浜岡北小学校給水管更新工事の設計を行った。	⑤転換  クラスの増減に応じた整備や、社会情勢やICT化の対応を行い、適正な整備、維持管理に努める。併せて長寿命化計画に沿って、各校の大規模修繕を実施する。
			効率性(コスト) 5	効率性(人員) 5		
特別教室の多機能化 (教育総務課)	-	100%	事業の妥当性 5	効果性 5	第一小学校の図書室、特別支援学級2教室及び御前崎小学校家庭科室にエアコン整備を行った。快適な学習エリアの拡張が図れた。	①継続  今後も学校要望や重要度に応じて、引き続き整備を行っていく。
			効率性(コスト) 5	効率性(人員) 5		
学校再編計画の検討 (教育総務課)	11	100%	事業の妥当性 5	効果性 4	市民広聴会、市民ワーキングを行った。20年後を見据えた形での学校再編計画について、引き続き検討する。	①継続  学校再編計画案について慎重に検討し、市民の方々などへ丁寧な説明をしながら計画を策定していく。
			効率性(コスト) 5	効率性(人員) 5		

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
【再掲】 学校のICT環 境の向上 (教育総務課)	8		事業の 妥当性		
			効果性		
			効率性 (コスト)		
			効率性 (人員)		
ICT関連周辺 機器の安定稼 働 (教育総務課)	8	100%	事業の 妥当性	5	①継続  学校ニーズやトレンドをとらえて、必要な周辺機器の整備をコスト意識を持ちながら継続する。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	5	
集中管理している教育ネットワークサーバーは、引き続きリース契約にて安定稼働をしている。併せて保守管理業務により、GIGAスクール構想によって設置した周辺機器の有効活用を行った。					

## V 令和4年度教育委員会の活動

### (1) 御前崎市牧之原市学校組合教育委員会委員の名簿

(令和5年3月現在)

役職名	氏名	任期
委員 (職務代理者)	増田克之	令和2年1月17日～令和6年1月16日 (令和5年1月1日～令和5年3月31日)
委員	松林義樹	令和2年7月11日～令和9年1月16日
委員	野口智美	令和3年7月5日～令和7年1月16日
委員	松下充利	令和4年1月17日～令和8年1月16日
教育長	河原崎全	平成30年4月1日～令和4年12月31日

(2) 協議事項

教育委員会が管理・執行する事務

項目	件数	点 検
(1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。	0	
(2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。	3	○御前崎市牧之原市学校組合教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について ○御前崎市牧之原市学校組合立中学校処務規定の一部を改正する規定の制定について ○御前崎市牧之原市学校組合教育委員会独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金取扱要綱の制定について について審議した。
(3) 県費負担教職員の懲戒及び校長の任免その他の進退について内申すること。	1	○令和4年度教職員人事異動について内申を行った。(うち、懲戒件数0)
(4) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。	1	○令和5年度当初予算案(3月) について具申した。
(5) 第26条の規定による点検及び評価に関すること。	1	○令和4年度御前崎市教育委員会の活動及び事務について点検・評価を行った。
(6) 教科用図書の採択に関すること。	0	
(7) その他	3	○令和4年度準要保護児童生徒の認定について ○令和5年度準要保護児童生徒の認定について ○御前崎市教育委員会教育長の辞職の同意について について審議した。

## 総合評価

常葉大学 堀井啓幸

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会の自己点検・評価に関わらせていただいて4年になる。

特に、この3年間はコロナ禍で対面活動が制限される状況にあって、教育委員会の活動も難しいかじ取りが求められたと思われるが、以下の表に示すように2022（令和4）年度は、2021（令和3）年度よりも「執行度 100%」という項目がさらに多くなり、コロナ禍でも多様、多量な教育事務を着実に管理・執行されてきた教育委員会の活動を高く評価したい。外部評価を含む自己点検評価によって重点取組の改善も図られており、それぞれの取組における事業内容が若干異なるので単純な比較は難しいものの、具体的に重点取組の自己点検・評価を執行度の視点から2021年度と比較してみると、各取組の平均値は以下のような結果（%）になっている。執行度は、「1生活習慣（学習習慣）」「5家庭教育支援の充実」がそれぞれ87.5%、90%と変わらないことを除き、100%ないしは向上がみられる執行度となった。

表 重点取組の執行度（%）

重点取組（継続事業）	2021年度	2022年度
1生活習慣（学習習慣）の定着	87.5	87.5
2市の特色を生かした教育や体験による愛郷心の育成	96.7	100
3読書・読み聞かせの推進	95.0	100
4乳幼児の保育・教育の充実と円滑な園小接続	100	100
5家庭教育支援の充実	90	90
基礎学力の向上と得意分野の伸長（2021年度）	100	—
6互いの人権を尊重し、思いやりを大切にする教育への取組	75	90
7探究的な学び・協働的な学びの深化（2022年度新設）	—	100
8ICT等の活用による新しい学びの展開（2021年度は「一人一台端末の効果的な活用」）	96.7	100
9健康教育を通じた体力の向上と健やかな体づくり（2021年度は「学校教育・社会教育を通じた体力の向上と健やかな体づくり」）	100	100
10特別な支援を必要とする児童生徒への教育の充実（2021年度は「不登校・特別な支援を必要とする児童生徒への対応」）	100	100
12ライフステージごとの学びの提供	88.0	100
13生きがいや潤いをもたらす文化・スポーツの振興	81.3	89.4
15新型コロナウイルス感染拡大への対応	100	100
16教職員の働き方改革の推進	100	100

重点取組は、2021（令和3）年3月に策定された御前崎市の「教育振興基本計画」（「御前崎市教育大綱」に連動）を踏まえて、2021（令和3）年度から新設された取組を含めて16の取組となっている。学識経験者の外部評価では、重点取組が多すぎるという意見もあったそうだが、「第2次御前崎市総合計画2016～2025」との関わりのもとで「Ⅲ重点取組」と「Ⅳ御前崎市教育委員会の自己点検・評価」との関係も明確になり、教育行政に関わる各部署の活動の振り返りもしやすくなったのではないと思われる。

特に、2021年度の重点取組「基礎学力の向上と得意分野の伸長」が、「6互いの人権を尊重し、思いやりを大切に教育への取組」「7探究的な学び・協働的な学びの深化(2022年度新設)」「8ICT等の活用による新しい学びの展開(2021年度は「一人一台端末の効果的な活用)」に分けられたことは、新学習指導要領等を踏まえた各学校園の実践とそれを支える教育行政のつながりを確認する意味でも重要である(今後は、個々の学校の学校評価との関わりで支援の在り方を振り返りたい)。

また、今年度より、自己点検・評価に関わる課長や補佐の連絡会が開催されることになり、評価項目やそれらに関わる事業や事務について庁内の共通理解が図られたことも評価したい。

御前崎市は「スクラム御前崎」というネットワーク型行政の機軸があり、御前崎市の教育行政や学校教育が日常的に「スクラム」を組んで対応することで共通理解がしやすい政策立案の土壌を作っていることがコロナ禍であってもこうした成果を上げているのではないかと推察する。教育事業を執行する当事者としての教育行政職員が、非常事態でも顔を合わせて臨機応変に対応を話し合えるという、おそらく御前崎市の教育風土に由来するであろう「スクラム」の姿勢が「執行度100%」の活動を作り上げている。御前崎市は、就学前の保育から小中学校、高等学校に至るまでの縦の連携(接続)、家庭、学校、社会を結ぶ横の連携が当たり前のようになっていることに強みがある。自己点検・評価が年度末に部署ごと行われてきたことを超えて、縦割りでなく、当事者意識をもって行われることで、御前崎市牧之原市学校組合教育委員会には「スクラム」をさらに太く厚くして継続してほしいと思う。

最後に、「自己点検・評価報告書」及び総合評価会議を踏まえて、今後の課題と思われる点を箇条書きに提示したい。

- ・防災教育のさらなる推進(昨年度同様、執行度も高くなく、個別学校での対応とともに、教育委員会としても検討の余地がある)
- ・学校教育と社会教育のさらなるスクラム(青少年補導「ネット依存の対応」、「青少年の未来を紡ぐ集い」などの連携はすばらしいが、新学習指導要領との関わり、キャリア教育や教職員の働き方改革との関わりでさらに学社連携を進めたい)
- ・新学校給食センター(2021年9月供用開始)や読書活動の充実発展のための学校図書館司書の配置などの条件整備とそれらの条件をさらに生かす「地産地消の推進」(執行度70%)や「これからの図書館づくり」施策との連携

今日、教育行政において、証拠に基づく政策立案(Evidence-Based Policy-Making)が求められている。本報告書でも、令和4年度の事業について進捗状況を個別具体的に詳細に振り返り、その結果が「執行度」や「妥当性」「効果性」「効率性(コスト・人員)」の評価として表されている。本報告書の振り返りは概ね妥当であると思われるが、数値で示される「執行度」「事業の妥当性」「効果性(人員)(コスト)」、そして、こうした結果を踏まえて検討された「今後の方向」がどんな視点で自己点検・評価されたのかが相変わらずわかりにくい。丁寧に評価をされているがゆえに、大まかであってもいいのでそれなりのエビデンスがみえる報告書のまとめ方(どこができてどこができなかったのか)をもう少し工夫していただければと思う。